

石井兄弟仇討の碑

青山因幡守宗俊の家臣、石井宇右衛門は宗俊について大阪に行く途中、赤堀遊閑に養子源五右衛門(後水之助)の将来を頼まれる。宇右衛門は源五右衛門が槍を教えることを聞いて注意する。源五右衛門は立腹、勝負するが宇右衛門に負ける。それを恨んで延宝元年(1773)宇右衛門を殺し逃亡。宇右衛門の長男三之丞と次男彦七が仇討に出るが探し倦んで源五右衛門の養父赤堀遊閑を討つ、8年後長男は天和元年(1681)源五右衛門の返り討ちに遭う。次男は海難で亡くなる。三男源蔵、四男半蔵は父が討たれたときは5歳と2歳であった。浅野家家臣によって養育される。源蔵が14歳の時仇討に旅立つ。源五右衛門はその後赤堀水之助と改め亀山藩に仕える。源蔵、半蔵は茶売商人となって城下に入り、藩士の家に奉公し機会を窺う元禄14年(1701)5月9日朝宿直を終えて帰るところを討つ父の死から29年目。



慈恩寺

神亀5年聖武天皇の勅願で建立開山は行基、古くは忍山神社の神宮寺。「境内は野村の地8町歩七堂伽藍、支院七ヶ所有した」本尊木像阿弥陀如来は国重文櫓の一木つくり。



石上寺 (真言宗)

延暦15年(796)新熊野三社の神宮寺として建立、建久6年(1195)には鎌倉幕府の祈願所に定められる。戦国期信長の兵火に遭う。江戸初期に再興後村上天皇の綸旨、鎌倉將軍の教書や守護札など貴重な資料残る。



東海道: 06 西富田(和泉橋)-亀山(野村)

亀山城

文永元年(1264)平資盛の孫関(平)実忠が現在の城跡より西に築城し城下に家臣住み、関氏はここを本拠に北伊勢地方に300年間勢力を誇った。信盛は信長、秀吉につき益々勢力を伸ばした。一政の時氏郷ついて関東へ。その後秀吉の武将岡本宗徳が移り現城跡に移す。宗徳は関ヶ原合戦で西軍に属したために没落、関一政が入り、松平忠明、三宅康信、本多俊次、石川憲之、板倉重常、石川総慶と次々と交代した。天守閣は寛永9年(1632)取壊しに遭う。



唯一残る多門櫓

亀山宿 (庄野宿より2里)

城下町、宿場町。城下の中に幕府直轄の宿場あったので参勤交代の大名は遠慮しながら通ったという。伊勢に行く旅人は日永の追分、関の追分から向うため宿は静かであった。宿は露心庵あたりから京口門あたりまで21町56間。本陣、脇本陣、問屋各1、旅籠21、天保14年(1843)。

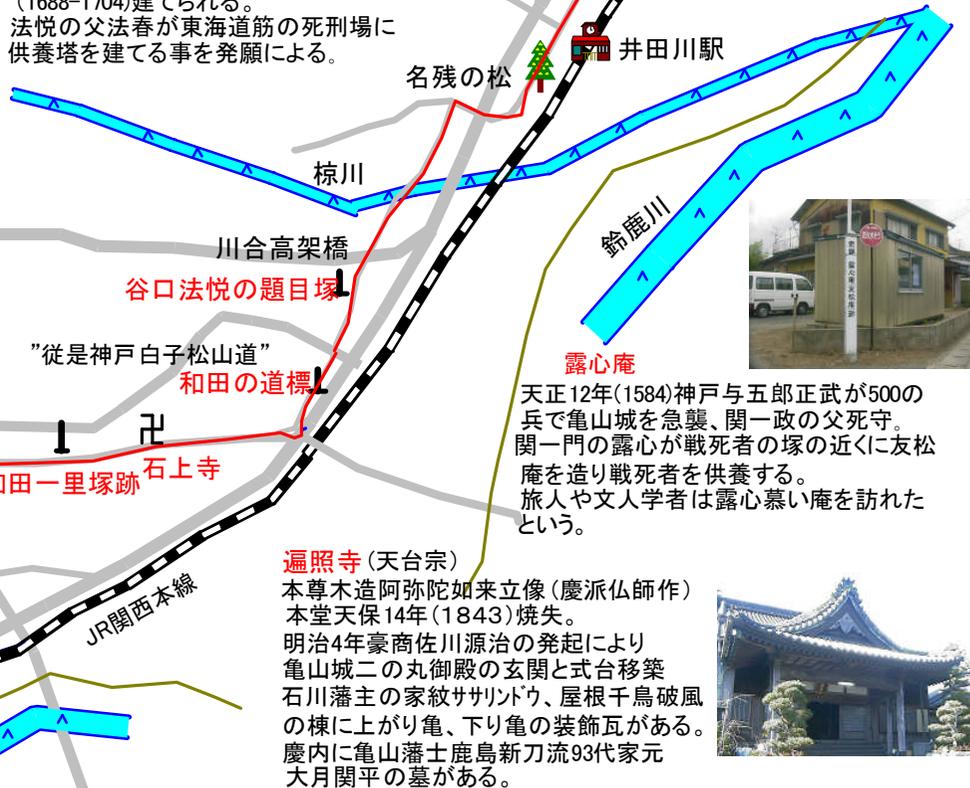


題目塚 (谷口法悦の供養塔)

「南無妙法蓮華経」の碑、元禄年間(1688-1704)建てられる。法悦の父法春が東海道筋の死刑場に供養塔を建てての事を発願による。

極楽山地福寺

往古は七堂伽藍を備えた寺、永禄11年(1568)信長の兵火に遭い焼失。観音堂は常念仏堂とし各誉上人の発願により延宝5年(1677)建立される。中央に歴代亀山藩主の帰依された阿弥陀如来をまつり、その両側に江戸の鈴木市部エ門が旅人の安全と家族の菩提を弔うために寄進した33体の観音菩薩像が安置されている。境内に明治天皇御休息所の碑がある。



遍照寺 (天台宗)

本尊木造阿弥陀如来立像(慶派仏師作)本堂天保14年(1843)焼失。明治4年豪商佐川源治の発起により亀山城二の丸御殿の玄関と式台移築石川藩主の家紋サリドウ、屋根千鳥破風の棟に上がり亀、下り亀の装飾瓦がある。慶内に亀山藩士鹿島新刀流93代家元大月関平の墓がある。

